
2024年4月10日

各位

株式会社 三十三総研

第56回「経営者アンケート」調査結果について

三十三フィナンシャルグループのシンクタンクであります株式会社三十三総研（代表取締役社長 一色 孝三）では、このたび三十三銀行のお取引先企業で構成する三十三ビジネスクラブの会員を対象とした経営者アンケートを実施し、調査結果を取りまとめたのでご報告申し上げます。

ー経営者アンケート調査の概要ー

1. 調査対象

三十三ビジネスクラブ会員で、資本金1億円以下の三重県下法人企業1,633先

2. 調査方法

郵送およびインターネットによるアンケート調査

3. 調査時期

2024年2月下旬～3月中旬

4. 回収状況

配布数 1,633票

回収数 555票（回収率 34.0%）

5. 調査結果

別添資料

※経営者アンケートは、年2回（3月・9月）実施しております。

なお、本件に関するお問い合わせは、下記担当者までお願い致します。

株式会社三十三総研 調査部（059-354-7102）

担当 内田 誠弥

以上

第 56 回経営者アンケート調査結果<概要版>

景況感は 4 半期振りに悪化、先行きは改善見通し

【今回のポイント】

景況感を示す景気判断 D.I.値(注)は 10 半期連続のマイナスとなったことに加え、マイナス幅が拡大したことで、4半期振りに悪化した。(p3)

2023 年度下期(2023 年 10 月～2024 年3月)の県内景気は、景況感を示す D.I.値が▲13.9 と 10 半期連続のマイナスとなったことに加え、2023 年度上期(2023 年4月～2023 年9月)の▲13.5 から 0.4 ポイント悪化した。来期(2024 年4月～2024 年9月)の D.I.値は+1.3 とプラスに転じて、経営者の景況感には改善する見通しである。

【総括】

景況感を示す景気判断 D. I. 値(注)は 10 半期連続のマイナスとなったことに加え、マイナス幅が拡大したことで、4半期振りに悪化した。先行きについては、2024 年度上期はプラスに転じて、経営者の景況感には改善する見通しである。

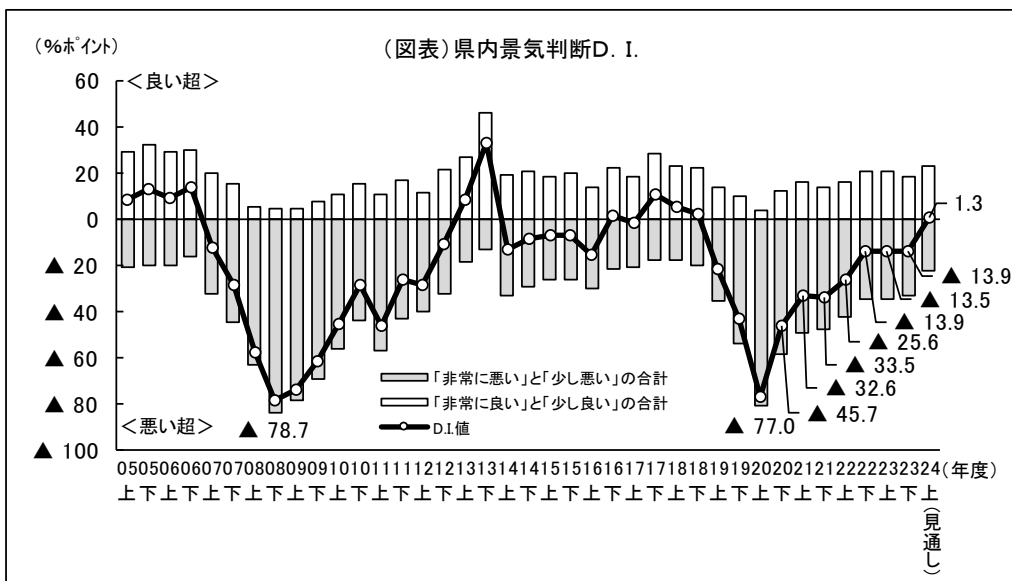
業界別にみると、景気判断 D. I. 値は、製造業が 10 半期連続でマイナスとなったことに加え、2半期連続で悪化(▲22.0→▲33.3)、建設業が 10 半期連続でマイナスとなったものの3半期連続で改善(▲14.2→▲5.8)、非製造業が 12 半期連続でマイナスとなったものの2半期振りに改善(▲18.7→▲14.0)した。

売上高の D.I.値は、製造業が3半期連続、非製造業が2半期連続で悪化(製造業: ▲2.2→▲18.9、非製造業: +9.7→+4.6)した一方、建設業が2半期振りに改善(▲14.9→+4.4)してプラスに転じた。

利益状況の D.I.値は、製造業が2半期連続、建設業、非製造業が2半期振りにそれぞれ改善(製造業: ▲17.9→▲12.9、建設業: ▲14.2→▲3.7、非製造業: ▲9.3→+0.3)した。

設備投資の実施状況は、「実施した」企業の割合が2半期振りに増加(34.5%→36.8%)。在庫状況は、「過剰」とみる企業の割合が2半期振りに増加(6.3%→7.6%)。雇用状況は、「不足」とみる企業の割合が2半期振りに増加(45.6%→49.2%)した。

(注)DI(デフュージョン・インデックス)値…「良い」(増加など)の割合-「悪い」(減少など)の割合。



【 項目別 】

①県内景気	県内景気判断 DI値は 10 半期連続のマイナスとなったことに加え、マイナス幅が拡大(▲13.5→▲13.9)したことで、4半期振りに悪化した。先行きについては、2024 年度上期の DI値はプラスとなり(▲13.9→+1.3)、経営者の景況感は改善する見通しである。(p3)
②業界景気	業界景気判断 DI値は、製造業が 10 半期連続でマイナスとなったことに加え、2半期連続で悪化(▲22.0→▲33.3)、建設業が 10 半期連続でマイナスとなったものの3半期連続で改善(▲14.2→▲5.8)、非製造業が 12 半期連続でマイナスとなったものの2半期振りに改善(▲18.7→▲14.0)した。先行きについて、製造業、非製造業ではそれぞれマイナス幅が縮小(製造業: ▲33.3→▲3.8、非製造業: ▲14.0→▲3.9)する一方、建設業ではマイナス幅が拡大(▲5.8→▲7.2)する見通しである。(p4~7)
③自社の業況	売上高の DI値は、製造業が3半期連続、非製造業が2半期連続で悪化(製造業: ▲2.2→▲18.9、非製造業: +9.7→+4.6)した一方、建設業が2半期振りに改善(▲14.9→+4.4)してプラスに転じた。先行きについて、売上高は、製造業がプラスとなるものの(▲18.9→+30)、建設業ではマイナスに転じ(+4.4→▲8.7)、非製造業ではプラス幅が拡大(+4.6→+6.6)する見通し。利益状況の DI値は、製造業が2半期連続、建設業、非製造業が2半期振りにそれぞれ改善(製造業: ▲17.9→▲12.9、建設業: ▲14.2→▲3.7、非製造業: ▲9.3→+0.3)した。先行きについて、利益状況は、製造業がマイナス幅が縮小(▲12.9→▲1.6)する一方、建設業ではマイナス幅が拡大(▲3.7→▲9.5)し、非製造業ではマイナスに転じる(+0.3→▲2.1)見通しである。(p8~15)
④経営判断	設備投資の実施状況は、「実施した」企業の割合が2半期振りに増加(34.5%→36.8%)。在庫状況は、「過剰」とみる企業の割合が2半期振りに増加(6.3%→7.6%)。雇用状況は、「不足」とみる企業の割合が2半期振りに増加(45.6%→49.2%)した。(p16・17)
⑤2024 年度 上期の展望	「プラス要因が強い」とみる企業の割合が2半期連続で増加(14.3%→14.8%)、「マイナス要因が強い」とみる企業の割合が2半期連続で減少(48.0%→46.7%)、「どちらとも言えない」とみる企業の割合が2半期振りに増加(37.6%→38.6%)した。(p18・19)
⑥特別調査 ～BCP(事業 継続計画)に関 する取り組み について～	<ul style="list-style-type: none"> ・BCPの策定状況について、「策定を予定・検討している」と回答した企業の割合が 34.6%と最も高くなった。 ・BCP策定時に想定するリスクについて、「自然災害(地震・台風・水害等)」と回答した企業の割合が 78.7%と最も高くなった。 ・事業継続のために必要な対策・備えについて、「緊急連絡網の確立、安否確認システムの導入」と回答した企業の割合が 48.3%と最も高くなった。 ・BCP策定時の課題・障害について、「策定に必要なノウハウがない(なかった)」と回答した企業の割合が 51.3%と最も高くなった。(p20~22)
⑦経営者の声 (自由記入)	<p><中国に関する声></p> <p>「中国の不調の影響が思いのほか大きい」(金属製品製造業)、「中国に対する規制が強化されてきている」(一般機械器具製造業)、「中国景気減速の影響が出始めてきている」(その他の卸売業)など。</p> <p><2024 年問題に関する声></p> <p>「2024 年問題への対策に伴う人件費増加、稼働時間減少」(建設業)、「2024 年問題で人材不足が加速」(道路運送業)、「2024 年問題への対応に料金の値上げ交渉が必要」(道路運送業)など。</p> <p><人材不足に関する声></p> <p>「新卒採用の応募の減少、退職者の増加」(その他化学工業)、「介護人材不足が緊急的課題」(医療・保健衛生業)、「人手不足により利用者数を選別」(旅館業)など。(p23~26)</p>

【 調査の概要 】

1. 調査対象
三十三ビジネスクラブ会員で、資本金 1 億円以下の三重県下法人企業 1, 6 3 3 先
2. 調査方法
郵送およびインターネットによるアンケート調査
3. 調査時期
2024 年 2 月下旬～3 月中旬
4. 回答状況
回収数 5 5 5 票 回収率 3 4. 0 %

※ なお、詳細な内容につきましては、調査結果冊子をご参照下さい。